

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(学習支援部)

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

学校番号	105
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向けて、生き生きと自分を表現できる児童生徒を育てる ・心のふれあいを大切に、自他共に尊重できる児童生徒を育てる
--------	--

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「保護者、地域との連携」「教育環境整備」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育方針や指導内容の保護者・地域への伝達」の項目では、80%を超えているが、評価は少し下がった。学習支援部としては、今後も地域での作品展を積極的に行うことで、学習の成果を保護者や地域に発信していく必要がある。 ・「児童生徒一人一人に合った教材・教具の準備」の項目では、評価が少し良くなり、80%を超えた。今後も、個に合った教材・教具の準備を行っていく。 ・新しく加わった項目として、よくあてはまる・ややあてはまるが、「学校の施設設備」では約65%、「ゆめフェスタ」では約85%を占めた。ICTや情報機器を導入するハード面の整備だけでなく、活用できるように教員のスキルアップも行っていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 学習活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚訓練士との連携に基づいた授業づくりを進める。 ・児童生徒の読書意欲を喚起する図書室運営を行う。 ・教材の管理・活用や校内視覚支援の活用に向けて、学習環境の整備を進める。 ・コンピューターや通信ネットワーク等(ICT)の情報手段に慣れ親しむ環境を整え、児童生徒の学習意欲と指導効果を高める。 ・ICTを活用した授業実践をまとめて紹介する。 <p>(2) 文化活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の障がいの程度や成長・発達・学習の状況に応じて、もてる力を発揮できる学校祭の運営を行う。 ・作品展やゆめフェスタ等を通じて、地域の方々との交流や理解を広げる。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌内を「学習活動支援」「文化活動支援」の2係に編成、それぞれの係に職員の特性を生かして小学部、中学部、高等部職員を配置する。
目標の達成に必要な具体的な取組	<p>(1) 学習活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別非常勤講師を活用した授業支援と外部機関との連携。 ・TOPNETへの蔵書登録と図書室の配架整理による図書室の整備。 ・教材の管理とスムーズな貸出による学習環境の整備。 ・高等部生徒の個人iPadの導入と使用環境(ルール等)の整備。 ・ICTを活用した授業実践例の紹介や共有等を通じた、ICT活用の推進。 <p>(2) 文化活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆめフェスタ(学校祭)実行委員会の補佐と連携。 ・地域の施設での児童生徒の美術作品の移動展示の実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師との連携に基づいた、児童生徒の成長を促す授業づくりができたか ・児童生徒が使いやすい図書室づくりができたか ・授業においてICTや視聴覚機器の有効利用・活用ができたか ・児童生徒のもてる力を発揮できるようなゆめフェスタができたか ・授業や学習の成果が分かる活動を行い、地域の方々に知ってもらうことができたか
取組状況・実践内容等	<p>(具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しらゆり相談(理学療法士、作業療法士、言語聴覚訓練士)の実施。 ・図書室の本のTOPNETへの登録完了、図書分類番号による書架の整理整頓、児童生徒の興

	<ul style="list-style-type: none"> 味に合わせた図書室の本の購入。 職員による「子ども読書の日」、高等部図書委員会と連携しての「読み聞かせ会」の実施。 教員対象の使用しやすい iPad のアプリの研修会の実施や、職員会議での iPad の実践例紹介の実施。 高等部 1 年生への個人 iPad の導入・活用開始。 ゆめフェスタ（学校祭）の実施。 地域の 5 カ所で計 7 回の移動作品展の実施。
評価の視点	評価
① 外部講師との連携に基づいた授業づくりができたか。	A B C D
② ICT の情報手段に慣れ親しむ教育環境の整備ができたか。	A B C D
③ 充実した文化的行事の運営ができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○ゆめフェスタでは各学部、各分掌と連携し、児童生徒のもてる力を発揮できるような文化的行事として計画実施することができた。今年度は、10周年記念式典と合わせての実施であったが、昨年度の引継ぎを生かしながら、全職員の協力を得て、実施することができた。</p> <p>○学校担当司書の方の協力を得て、図書室の書架を整備することができた。</p> <p>○ICT や情報・視聴覚機器の活用が多くなされ、児童生徒も iPad に親しみながら学習をすすめることができた。</p> <p>○十六銀行黒野支店、大垣共立銀行黒野店、樽見鉄道本巣駅、西郷郵便局、プラザ掛洞の 5 施設で、美術作品展を行うことができた。</p> <p>▲昨年度も反省を生かし、来校曜日の固定をなくしたが、外部講師を活用する学級・教科等が限られている。</p> <p>▲教職員の意識改革、児童生徒への図書館の使い方のルールの徹底、図書委員会の委員会活動の見直し等、整理した書架をきれいに保つための体制を整備する必要がある。</p> <p>▲高等部 1 年生の個人 iPad の導入により、調べ学習以外にも iPad を効果的に活用した授業実践や学習活動の事例交流・紹介や推進を図る必要がある。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用や実践を共有する方法を工夫し、利用を推進していく。 図書室の整備に向けて、TOPNET を活用している学校の情報を仕入れ、試行する。また、書架の整理整頓ができるように、図書委員会や教職員と連携しながらすすめる。 ICT を活用した授業実践や学習活動の事例交流・紹介や推進を図るとともに、活発な活用に向けた物品の管理運営の改善を進める。 各学部、各分掌と連携し、事前の取り組みから児童生徒のもてる力を発揮できるよう文化的行事を計画・実施していく。

学校関係者評価（平成 31 年 2 月 7 日実施）

意見・要望・評価等

- 10周年記念式典では児童生徒一人一人が活躍できるように素敵な趣向が凝らされていた。今後も児童生徒が自立と社会参加に向けて生き生きと活動し、充実した学校生活を送ることができる教育の推進を期待している。